

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和2年3月6日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4670201088
法人名	社会医療法人 卓翔会
事業所名	グループホーム遊雅の郷
所在地	鹿児島県薩摩川内市入来町浦之名786番地 (電話) 0996-21-4500
自己評価作成日	令和2年1月20日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和2年2月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

事業所周辺には山々があり、季節の移り変わりを実感できる環境にあります。また、季節の花などを飾り季節を感じることができるよう心掛けています。基本理念である「人間としての尊厳を守り、やすらぎのある生活をしていただく」を念頭におき支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは薩摩川内市入来町の緑豊かで静かな田園地帯に位置し、すぐ近くに消防署や交番、職業訓練校、地域コミュニティセンター、軽費老人ホーム等がある。車で約10分のところに法人の母体医療機関や関連施設があり、母体医療機関では身体拘束や接遇に関する研修会や院内勉強会を実施したり、利用者のかかりつけ医として緊急時や体調不良時にも即座に対応できる体制を整備する等、継続的な医療が受けられるような支援を行い、日頃から連携を取り合って利用者の生活を支えており、利用者・家族・職員の安心感に繋がっている。また、協力歯科医療機関への受診は週2回、送迎付きで可能となっており、容易に受診できることと、受診が利用者の外出の機会となっていることもあり、受診する利用者が増加している。

住み慣れた地域の中で人間としての尊厳を守り、自分らしく笑顔いっぱいにやすらぎのある生活を送れるように、との願いを込めた理念を掲げ、職員は常に理念を意識しながら利用者の想いに寄り添って日々の支援に取り組んでいる。職員間ではコミュニケーションを密にとり、互いに思いやりの気持ちを持って素朴な人間味のある関係性を保ちながら、働きやすい職場環境づくりを目指している。

利用者の高齢化に伴って、行事への参加や外出等が難しくなっているが、家族に協力をもらいながら花見、家族との買い物や外食・外泊、病院受診等、可能な限り外出できる機会を設けられるように個別的な支援に取り組み、また、地域との交流もこれまで以上に深めていく必要性を感じており、今後のサービス向上に活かしていくことができるように、検討していきたいと考えている。

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ．理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	理念はスタッフルームや食堂に掲げ、日常のなかで目に入り確認し、常に共有できるようにしている。	理念は職員の目に付きやすいように食堂やスタッフルームに掲示しており、職員は理念を意識しながら利用者の話し相手になりたいという思いで寄り添っている。また、毎年度目標を設定し、口腔ケアや職員研修等について重点的に取り組み、サービスの実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設内の行事に地域の方がボランティアで参加していただいたり、地域の運動会などの企画に参加したりしている。	自治会には加入していないが、地域の方々による施設の夏祭り・クリスマス会への参加、踊りの披露等が行われている。中高生のボランティアや職業訓練校からの介護実習生の受け入れもあり、隣接するコミュニティセンターは夏祭りや運営推進会議の会場となっている。近隣の方々とは散歩時に会話したり老人会から野菜のおすそ分けを頂くなど、地域住民との交流に努めている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	施設見学やボランティアで来られた際に相談を受けている。また、電話での相談も受けている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	民生委員、消防署、老人会代表の方にも会議に参加していただき、会議の中で出てきた意見や助言を取り入れるようにしている。	現在は民生委員、消防署、老人会、母体医療機関の地域連携相談室、市職員等の出席により、隣接のコミュニティセンターで2か月毎に開催しているが、利用者と家族はホーム以外での開催に出席が難しくなっているため、4月からはホームで開催する予定である。会議ではヒヤリハット、入居者状況、行事予定・報告等について意見交換され、サービスの向上に活かしている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	わからないことなどは、運営推進会議の際や市役所に行き相談しながら取り組んでいる。	市の担当職員とは介護保険関係書類の提出や運営推進会議への出席、様々な相談等を通して日頃から連携を密に図り、ホームの運営や現状を伝達して協力関係を築いている。グループホーム協議会主催の研修会や「サービス事業者連絡会」に参加し、現場における課題についての検討・意見交換により連携を深めている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束抑制防止委員会を設けて、日々のケアの中で行動制限になっていないか、振り返り声掛けの仕方や支援の方法を検討したり、業務の中で注意しあったりしている。	身体拘束抑制防止委員会を月1回開催し、職員会議においても身体拘束について確認している。母体医療機関においては接遇研修等の院内勉強会を行い、転倒の危険性が高い利用者の場合は家族に対して十分に説明するなど、利用者の安全を確保しながら自由な暮らしを支援するために取り組んでいる。日中は玄関の鍵をせず、抑制になる言葉は適切な言葉に言い換えるように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束抑制防止委員会や毎日の申し送り等の中で虐待の確認や支援について話し合ったり、注意を促したりしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	行政や権利擁護センターに相談したりして、成年後見制度利用につなげたりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約や重要事項説明は入所時に確認をしながら説明を行っている。入所後も家族からの質問等を伺うようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時などに意見を伺ったりしている。	家族の意見・要望は主に面会時に聞き取っているが、利用者の場合は生活歴や家族からの情報、日々の様子から想像されること、本人の反応等を考慮して把握している。個別的な要望に対してはその都度対応しているが、更にサービスの向上を目指すために、今後はアンケートの実施やホーム便りを再開することも検討していきたいと考えている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員の意見を聞くようにし、その意見や要望が運営に反映されるようにしている。	管理者は日頃から職員に対して声をかけを心掛け、意見等は都度聞くようにしているが、年2回の個別面談でじっくりと対応できるように努めている。職員は希望に沿った有給取得や職員間での勤務交代が可能であり、管理者は資格取得や研修会への参加にも可能な限り対応して、職員のスキルアップを図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	業務改善を検討し、残業が無いようにしたり、希望する休日が取れるよう可能な限り調整したりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外で行われる研修に参加できるように調整している。また、参加者からの研修内容の報告を共有するようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に入り、研修会などで交流する機会をもてるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に施設見学に来ていただいたり、自宅や病院、施設に面会に行き、御本人から話を伺っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学に来られた時や入所相談があった時に、現状で困っていることやどのような生活を送りたいかなどの要望を伺っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時に、御本人の状態など話を伺い、状況によっては他事業所を紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人ができることは促し職員は見守りをしたり、一緒に片付けや掃除、洗濯物たたみ等をしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙で近況報告したり、外出などの協力を依頼することもある。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた家族や知人・友人とゆっくりと過ごせるようにしている。	入居時のアセスメントにより利用者を取り巻く環境を把握し、職員と家族が協力しあって電話・手紙の取り次ぎ、知人・友人の来訪、2か月毎に来訪する美容室アイランド号、受診時の買い物、墓参りなど、これまでのつながりを維持できるように支援している。協力歯科医院は送迎付きで週2回受診できるため、出かける機会を作ろうと希望して受診する利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係性を考えながら、食事の席を検討したり、孤立することが無いようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所時に施設での支援経過などの情報提供をしたり、様子を伺ったりしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	要望等伺うようにしている。対応が難しい場合は、御本人と話し合う等して決めている。	利用者の殆どは意見・要望等を表現できるが、日頃の関わりの中から表情・仕草等を汲み取り、家族の意見を参考にしたり本人ともよく話し合うことにより、本人らしく暮らしていけるような支援に努めている。職員は把握した内容をミーティングや職員会議で共有し、申し送り時のカンファレンス等を通して利用者の視点から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活暦や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族やケアマネジャーから情報を提供してもらったり、日頃の会話の中からも聞き取ったりしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日を通しての言動や食事摂取状況、排泄の状況等を記録し、職員同士で情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員や看護師、医師から意見を聞いたり、本人や家族の意向もケアプランに反映するようにしている。	利用者及び家族の思いや意見を聞き、職員や医療関係者の意見・助言等も参考にして、毎月のモニタリングと6か月ごとの見直しを行ないながら、職員間で話し合って介護計画を作成している。計画は、本人が穏やかに落ち着いて過ごせることを第一に考え、利用者の身体状況に合わせて臨機応変に見直し、現在の状態に即したものとなるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に介護記録を記入し、出勤時に各自が確認するようにしている。また、特別な変化がある時は、申し送りで情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の状態や家族関係等を把握し、必要に応じて他機関に相談したりして支援している。		
29		○地域資源との協働 一八ひこりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族の協力を得ながら、入所前に参加していた集まりに参加したり、同じ地域に暮らしていた入居者同士で話しをして昔を懐かしむことができるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族が希望される病院へ通院し適切な医療が受けれるように支援している。	殆どの利用者は母体医療機関をかかりつけ医としており、月1回の往診や週1回の訪問看護を受け、また緊急時や体調不良時にはすぐに対応してもらえるなど、母体医療機関との密な連携を図っている。他科受診は基本的には家族同伴としているが、精神科受診は職員で対応している。受診結果は介護記録や申し送りノートに記載して職員間で情報共有し、家族にも報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護あり。連絡シートを活用し看護師へ相談や指示を受けている。また、訪問時以外でも体調不良等あるときは看護師に相談又は受診をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の病状説明に職員も同席させてもらい、治療方針や退院時期について確認をしている。また、普段の様子等も病院側に情報提供している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や急変時の対応については入所時に書面で確認をしている。また、実際に重度化したり終末期になった場合は本人や家族の意向を確認し、それに沿った支援をしている。	入居時に「重度化した場合における対応に関する指針」について説明し、同意を得ている。職員への研修はインターネット等を活用して、急変する前に日頃から必要とされる救急救命処置等についても実施され、不安の軽減に努めながら事例検討等を通して施設としての対応方針の共有を図っている。実際に終末期となった場合、利用者や家族の変化する思いを理解して寄り添って対応するように努めているが、医療機関で最期を迎える利用者も多い。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置。普通救命講習を受講している。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回夜間想定と日中を想定し訓練を行っている。また、地域で行われる、地域での防災の話し合いにも参加している。	年2回のうち1回は消防署の協力を得て、夜間想定を含めた火災に対する避難訓練を新規職員参加の下で実施している。隣接のコミュニティセンターが避難先となっており、職員へは連絡網を通して、消防署へは火災通報装置により、関係機関との連携も取りながら実践的な訓練に取り組んでいる。備蓄はユニット毎に管理され、食料品や飲料水等の他、懐中電灯、ラジオ、カセットコンロ、毛布等も準備されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者一人ひとりの自尊心に配慮した支援を心がけている。声掛けにも注意している。	入居時に本人及び家族に対して個人情報の保護に関する同意書について説明し、同意を得ている。実習生等の受け入れに際しては、個人情報取り扱いに関する誓約書で守秘義務の徹底を図り、毎年4月には外部講師による接遇研修も実施している。トイレ誘導など、言葉遣いが不適切にならないように職員間で注意しあって支援に取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	なかなか、自己表現ができない方は、日常生活のなかでの会話からくみ取るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の流れは決まっているが、居室や食堂と自由に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	起床時に衣類を選択していただいたり、家族にふだん着ていたものを持ってきてもらうようにしている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の嗜好や咀嚼嚥下機能に応じた食事の提供や季節を感じることができるような食事の提供に努めている。	入居時に利用者の身体状況や食事の摂取状態、嗜好等について聞き取り、一人ひとりに合わせた食事の提供ができるように支援している。ホームには給食委員会が設置され、メニューの決定や見直し等を行っているが、法人の管理栄養士が立てた献立を基に、季節の行事食、手作りおやつ、リクエストメニュー等に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量を毎食時確認している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	個々の状態に合わせて、毎食後口腔ケアの声掛けまたは介助を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、表を確認しながら声掛けトイレ誘導し汚染が少なくなるように支援している。	利用者の生活習慣や身体機能に応じた排泄の支援を行うために、アセスメントによる情報収集や排泄チェック表を活用して声かけ、トイレ誘導を実施している。日中はトイレでの排泄を基本とし、利用者毎にオムツとリハビリパンツの組み合わせを検討して、できるだけ自立へ向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて排便状況を確認している。水分摂取や運動、トイレ誘導時に声掛けしたりしている。また、医師と看護師に相談し下剤の調整も行っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日の心身の状態を確認し、安心して入浴ができるよう支援している。また、入浴日でも入りたくないと言われる時は日にちをずらしたりしている。	入浴についての好みやこれまでの習慣は、入居時に利用者及び家族から聞き取り、週2回の入浴を基本としているが、本人の希望や失禁等の対応でいつでも入浴できる。入浴をためらう利用者には日にちや時間をずらしたり、あえて入浴日を決めずに声かけするように工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごすようにし、夕方にかけては穏やかに過ごすようにし、夜間は安心して睡眠がとれるように環境を整えたりしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書はいつでも確認できるように管理している。内服薬の変更があるときは申し送り等で情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の意欲や能力に応じて、洗濯物たたみ等の作業をしたり、塗り絵や歌等、好きな活動をして気分転換ができるようにしている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や気温に注意しながら、施設周辺を散歩したりしている。本人の希望があるときは家族に協力をもらいながら外出を行っている。	日常的な外出としては、天気や利用者の状況により、可能な場合にはホームの周辺を散歩し、近隣の方々と触れ合っている。花見、ふれあい広場、病院受診等に出かけ、本人の希望に合わせて家族との買い物や外食・外泊など、個別的な支援に取り組んでいる。ホームの庭には長椅子が配置されて、お茶飲みや外気浴等を楽しんでいるが、ウッドデッキの活用も検討していきたいと考えている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持を希望される方には、お金を所持してもらい、買い物に支払いしたりされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	電話や手紙のやり取りは自由にされている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	植物や飾りで季節感を出すように心掛けたり、清潔を保ち心地よく過ごせるよう努めている。	木製の玄関の扉には心地良い音色の鈴が取り付けられ、居室入口の扉は障子をイメージさせる造りで、和の雰囲気が感じられる。広いリビングは明るく、植物や掛絵等から季節が感じられ、居心地良く過ごせるように工夫されている。6畳の和室は、洗濯物をたたんだり談笑してくつろげる空間となっており、家庭的な雰囲気で本人らしく過ごせるように配慮されている。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチがあったり、食堂でも気の合う者同士話しができるよう席を工夫したりしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた馴染の物を持ってきていただくようにしている。	居室の入口には利用者が貼ってあり、エアコン、ベッド、マットレス、たんす、洗面台が完備されている。本人の使い慣れた馴染みの物を持ってきてもらい、小物等好みの配置を楽しみ、居心地よく安心して落ち着いて過ごせるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりに掴まり、ご自身で移動することができたり、できるだけ自立した生活が送れるように支援している。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ全ての家族と
		○	2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1 大いに増えている
		○	2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない